

送り出した生徒たちの頑張り

某高校職員の来客がありました。年度初めのあいさつと、その高校に進んだ卒業生の情報が目的でした。三年主任のY教諭が接待しましたが、話が進むにつれ、彼女の顔が見る見るうちにほころんでいきました。旧三校と北中の卒業生の頑張りが話題になったからでした。

「えっ、学級の中で成績一番ですか！」

「二年生で（部活のレギュラー）メンバーに入れるなんてすごいですね！」

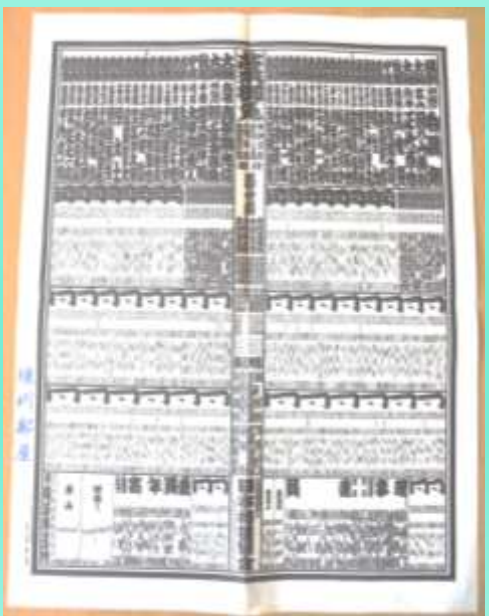
「級長をやっているのですか！」

感動と歓喜の連続でした。二人のやり取りをそばで聞いていた私も、大変うれしくなりました。とりわけ、現高一と高二の卒業生については、新型コロナウイルスによる制限と我慢の中学生を送らせてしまいました。そんな彼らを送り出した今、高校で頑張っていることがわかると、私は彼らに救われたような気持ちになります。

折しも、ますますうれしくなる情報が入りました。二月二日に「志を果たすために」というタイトルの文章で紹介した、水野裕哉君（境川部屋）の情報です。

上京して早三ヶ月。まだまだ甘えてもよい年齢なのに、彼は幼いころからの夢を追って、十五歳という若さで勝負の世界に入りました。進学ではありません。就職です。それも実力だけが物を言う相撲の世界です。

下の写真は、現在行われている大相撲夏場所の番付表です。最上段の右端に書かれているのが横綱白鵬（はくほう）。以下、全力士、親方、行司や呼び出しなどの大相撲関係者が、この一枚に掲載されています。この中に、彼君の名前もあるのです。珍しいものですね。近いうちに校内に掲示します。彼の名前を探し出してくださいね。



教師になって今年度で三十七年目を迎えた私ですが、送り出した生徒たちがそれぞれの世界で頑張っている姿を見たり、活躍していることを知ったりすると、「教師をやっていてよかったなあ」としみじみ思います。

「頑張り」「活躍」というと構えてしまうかもしれませんね。中学生時代の面影を残しながら父親母親になっていたり、会社の制服やスーツなどに身を包んだ立派な社会人になっていたりすると、思わず心の中で「頑張ったね」と声をかけたくなりました。最近よくそんなことを思っています。年を取ったせいででしょうかね。